

大鹿村中央構造線博物館たより 118号



2019年3月発行
TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

冬でも楽しめる!?! 徒歩観察コースを作成!



毎年冬の大鹿村は、観光客が少なく、北川露頭・安康露頭への道も冬季閉鎖となるため、博物館への来館者も少ない日が続きます。しかしながら、冬は、木の葉が落ちて、地形の観察には絶好の時期ですし、露頭に近づいて虫に噛まれたりする心配もありません。冠雪の赤石岳もきれいに見えます。大鹿村の冬は寒いとはいえ、天気の良い日の昼間は暖かい日もとときどきあります。そのような日には、寒さに凍えることなく、ウォーキングを楽しめます。そこで、道の駅発着の1時間半程度の徒歩観察コースマップを作成してみました。今後、塩の里発着のコースや、道の駅から塩の里に行くコースも作成予定です。

図1 コースマップ



写真1 道の駅「歌舞伎の里大鹿」(地点①)
背後に大西山崩壊跡地が見える。



写真2 大鹿保育所から南を眺める。(地点②)
保育所は、中央構造線の直上に建っている。

道の駅(写真1, 図1の地点①)を出発し、国道沿いに南下し、保育所(写真2, 図1の地点②)のあたりがちょうど中央構造線の上になります。南を見ると、中央構造線の断層谷が見えます。保育所から、筒井輪店にかけてのあたりが、昭和36年に大西山が崩壊したときに、土砂に襲われてしまった地域です。建設省の慰霊碑(写真3, 図1の地点③)も建っています。さらに国道を南下してから左折し、大磧神社(図1の地点④)に寄ってから二股に分かれる道を右に進むと、結晶片岩(写真4, 図1の地点⑤)の露頭があります。結晶片岩は、薄い板を重ねたような構造が特徴的な岩石で、中央構造線を挟んで赤石山脈側に分布しています。さらに近くには、表面がつやつやして緑色をした蛇紋岩の露頭(図1の地点⑥)もあります。

小渋橋（図1の地点⑦）やウエストーン碑（図1の地点⑧）を左手に見ながら、国道に戻り、新小渋橋を渡ります。中央構造線博物館やろくべん館に寄っていただいても良いですが、先を急ぐ場合は、博物館より一つ南側の道路を西に進みます。前方左側に和合の集落が見えます（写真5、図1の地点⑪より少し東側より撮影）。和合の集落は、半円形の台地の上に立地しており、よく見ると大西公園のあたりと似たような地形をしています。この台地は、かつて伊那山地側の山腹が崩壊し、沢を流れ下った土砂が沢の出口から広がって堆積した土石流扇状地と考えられます。



写真3 建設省慰霊碑(地点③)
大西山の崩壊土砂が慰霊碑周辺まで押し寄せた。



写真4 結晶片岩露頭(地点⑤)
中央構造線を境に赤石山脈側に分布する岩石



写真5 和合の集落
急峻な伊那山地側に立地する集落



写真6 中央構造線のほぼ真上から北を見る。(地点⑩)
掘田城の断層鞍部が見える。

博物館周辺の田んぼが広がる地帯には、古い岩盤の上に、川の運んできた礫が20メートルほど堆積しているため、中央構造線の位置がはっきりとはわかりませんが、おそらく図1の地点⑪あたりが、中央構造線のほぼ直上のあたりになると思われます。ここから、南北方向を見ると、少しわかりにくいですが、張り出した尾根の途中に、断層鞍部と思われる凹みが見つかります（写真6, 7）。再び歩を進めて、青木川にかかる橋を越えてすぐ右折すると、マイロナイトの露頭があります（写真8、図1の地点⑫）。マイロナイトは、断層の近傍の地下深いところで、断層がずれる力を受け、引き伸ばされるように変形した岩石ですが、ここの露頭のマイロナイトは、地下深くから隆起上昇してくる間に、浅い部分で再び断層がずれ動く力を受け、破碎岩となっています。ここより大西公園に向けての道沿いは、マイロナイトの急崖が続いており、時折、落石の音が聞こえ、スリリングです。東屋のあるところが大西公園の歩道入口ですので、歩道に沿って歩いていくと、左手が崩壊礫保存園として大西山が崩壊したときの状態のまま保存されています（写真9、図1の地点⑬）。周辺には、大小さまざまなマイロナイトの岩が転がっています（写真10）。

（宮崎）



写真7 中央構造線のほぼ真上から南を見る。(地点⑩)
城の腰の断層鞍部が見える。



写真8 マイロナイト露頭(地点⑫)
破碎した岩屑が網の中に溜まっている。

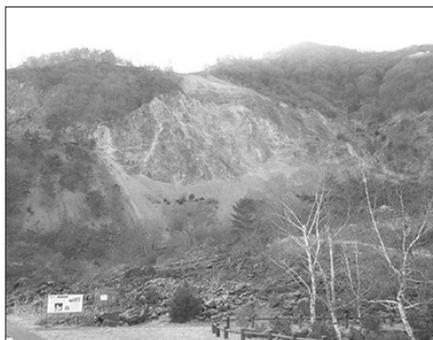


写真9 大西公園の崩壊礫保存園(地点⑬)
背後に大西山の崩壊跡が見える。



写真10 崩壊礫保存園のマイロナイト(地点⑬)
中央構造線を境に伊那山地側に分布する岩石